



春秋戦国時代の友情 (奇貨居くべし③)

11月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年11月21日(月)

秦の始皇帝は、若き頃の「子楚、莊襄王」の子である。

子楚はかつて趙の国の人質となっていたころ、呂不韋の愛妾を見初めてもらい受けた。この夫人から生まれたのが始皇帝である。

呂不韋は陽翟の大商人であった。

諸国を往来し、品物を安い時に仕入れておいては、時期を見て高く売りさばくという商法で、千金の富を築いた。

秦では昭王の四十年に太子が亡くなり、次男の安国君が太子となった。安国君には二十余人の男子がいたが、寵愛する正夫人の華陽夫人には実子がなかった。その二十余人の中に「子楚」という者がいた。

子楚は人質として趙に送られた数多い妾腹の一人であり、しかも人質の身であるため日々の生活にもことかく始末だった。

呂不韋が商用で趙の都、邯鄲に出向いたとき、たまたま「子楚」を見かけ、「奇貨居くべし」、これは掘り出し物だ、買っておこうと言ったのが物語の始まりであった。

呂不韋は子楚を訪問して、「あなたの父君である太子の安国君と華陽夫人の二十余人居る後継者の中から、あなたを後継ぎにさせるよう二人で工作しましょう」と言った。子楚には思いがけない話であったが、呂不韋を信じた。

二人は相談して、「子楚が安国君と華陽夫人を心から敬慕していること」を伝えて近づき、華陽夫人には、「色をもって人に使う者は、色衰えて愛弛む」と説き、華陽夫人を尊敬する子楚が太子になるように、そして、後には王位につくように華陽夫人に後見を頼み込んだ。

呂不韋と子楚は互いが将来のために図り、呂不韋は彼の愛妾を子楚に与え、子楚との間には、予定日より二ヶ月も遅れて男の子(政、後の始皇帝)が生まれた。

秦の昭王は在位五十六で世を去り、太子安国君が即位(孝文王)し、華陽夫人が王妃となり子楚は太子となった。新王孝文王はわずか一年にして亡くなり、代わって子楚が即位して莊襄王となって、呂不韋と子楚の計画は成功した。莊襄王は恩のある呂不韋を丞相とし、文信侯に封じた。しかし莊襄王は在位三年で世を去り、太子の政(後の始皇帝)が十三歳で秦王となった。そして、呂不韋の時代が来た。

参考：(司馬遷史記、呂不韋列伝)